

■学校経営のポイント

デジタル教科書の段階的導入に向けて

小島 宏

文科省は令和6年度から段階的に、小学校5・6学年～中学校3学年でまずは英語科、その次に算数・数学科でデジタル教科書を導入する方針である。国は、それに向け実証を進める予算措置をした。

今号は、いかにしたらデジタル教科書が、児童生徒の学習に効果的に利活用できるかを考察する。

なお、デジタル教科書は紙の教科書と同一の内容とされているが、デジタル教材との一体的な使用が効果的であることから、以降、デジタル教科書・教材として一体的な観点から述べる。

英語及び算数・数学科から導入する根拠

英語(外国語科)で導入する根拠として、すでに実証事業で小中学校に導入されており、会話や文章の読みなどにおける音声教材等が4技能の指導や個別指導の観点で有効であることがあげられる。

算数・数学科においては、英語の次に現場のニーズが高く、指導の系統性の観点や習得状況の把握の観点から効果が期待でき、図形やグラフの作成等で活用できるとされている。

効果的な利活用への挑戦

文科省のワーキンググループでは、児童生徒の多様性をふまえ上手にデジタルと紙を組み合わせることが合理的で、どちらを使用するのかを児童生徒が選択することは非常に大事とし、デジタルと紙の教科書の両方が用意されている環境が必要としている。

そこで、紙とデジタル教科書・教材を組み合わせ、次のような学習活動を展開することが考えられる。

- 英語科では、共通に学ぶ内容は一斉学習で主として紙の教科書を使う。単語や文章についてネイティブの発音を繰り返し聞きながら正確な発音を学ぶなどの場合には、デジタル教科書・教材を使う。
- 算数・数学の学習では、自力解決の段階は紙の教科書で、解決の過程や解答の確認及びつまずきの克服には教師の支援やデジタル教科書・教材

を使う。

教師は「失敗は成功へのプロセス」として、試行錯誤を繰り返し「挑戦」し続けてほしい。

デジタル教科書・教材の長短

なお、1人1台端末でデジタル教科書・教材を使用する際、一般的に次のような長短が指摘されている。

長所としては、音声や動画の再生、図形やグラフの作成、ルビ振り、図表や資料や写真などの拡大・縮小、Web検索、障害のある子供や外国人の子供への支援など。

短所としては、視力低下、授業に関係ない動画を見たりゲームをする、操作の苦手な子がいる、フリーズやエラーなど端末の不具合、通信環境による不具合の発生、などが指摘されている。

そこで、長所をふまえて、よりよく利活用し、短所を克服する工夫・改善が求められる。

また、次のような見解もあることから、広く情報を収集し、子供に「質の高い学力」を保障できるように、デジタル教科書・教材の利活用について研究・開発、研修を進める必要がある。

○OECDの国際学力調査では、生徒1人あたりのコンピュータ台数を増やした学校ほど学力が低い傾向があった。

○デジタル教科書と紙の教科書をハイブリッドに活用する。

○デジタル教科書に学習効果があるか、科学的な検証が必要である。

校長のリーダーシップ

デジタル教科書・教材の効果的な利活用および紙の教科書との併用の仕方は、まだ確立していない。

自校で工夫・開発するとともに、広く情報を収集する必要がある。また、近隣の小中学校間の連携・協力も肝要である。

(こじま・ひろし＝元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会顧問)

●「学校運営」「人材育成」のポイントを余すことなく解説！ **《3/2発売 予約受付中！》**
教職員が育つ 学校づくりは人づくり 教頭・副校長が必ず押さえておきたいポイント

野口みか子【著】 A5判／定価 2,310 円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

